

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人東根福祉会 放課後等デイサービス大げやき			
○保護者評価実施期間	令和8年1月9日 ～ 令和8年1月21日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	令和8年1月9日 ～ 令和8年1月21日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月27日～			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●多彩な活動プログラムへの取り組み 事業所内だけでなく外部での活動も多く取り入れ、また地域の方々のボランティアを受け入れるなど様々な経験ができるように計画している。	季節ごとの行事やイベント、外出活動、ボランティアの方々との交流に取り組んでいる。長期休み時には公共施設の見学(今年度はTV局見学)、児童遊戯施設、消防署や防災センター見学、買い物練習など、社会参加につながる活動を行っている。公共でのマナーを知ったり、外食でのマナーやお金の支払い方などと、様々な経験ができるように取り組んでいる。 また、学校休業日の昼食づくりや手作りおやつの日を企画し、食育をはじめ、作る楽しみ、食べる楽しみ、調理器具の安全な使い方や達成感を喜び活動として発信している。	今後も子どもたちの興味関心を探りながら、様々なことにチャレンジでき、社会経験を豊富にする取り組みを行っている。 活動内容がマンネリ化しないよう、新たな場所や内容を検討していく。
2	●アットホームな温かく明るい雰囲気 子どもたちが通所を楽しみにしてくれている。 幅広い年齢層小学1年生から高等部2年生まで一緒に活動している。 様々なスキルを持つ職員、経験豊富な職員が多く、楽しく安心できる居場所になっている。	元気な明るい話し声や笑い声が飛び交うことで、自然と笑顔になることができる。職員も子どもたちも共に楽しむ。楽しいことが成長の一番の原動力ととらえ、「毎日ワクワク、明日も来たい」と思える事業所を心掛けている。 異年齢での活動の中で、上学年の子の真似をして様々なスキルを習得したり、下学年の子を思いやりながら、リーダーとして考えて動ける力が育つように支援している。	風通しが良い職場の雰囲気作りに努め、コミュニケーションを大切に、それぞれの職員の強みを生かし、笑顔で支援ができるよう連携を図っていく。 今後も新しい遊びや様々な分野の活動を提供し、ますます楽しみを持って通所できる事業所運営に努めていく。
3	●同法人内に介護施設や障害福祉施設があること	特に障害福祉施設とは交流があり、様々な行事を合同で実施したり、高等部の利用者を主とし就労に向けて見学や作業体験などを行っている。	さらに将来を見据えた取り組みを企画していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	●施設環境の課題 子どもたちがのびのびと体を動かすことができるスペースがないことや一人の空間が作りにくい。 駐車場の確保が難しい 保護者様の来所時(送迎など)にご迷惑をおかけしていることがある。	マンションのワンフロアタイプ室を賃借しているため、個室の確保が難しい。また駐車場はあるのだが、建物からの距離があり、施設の前は限られた駐車スペースのため、来所時の対応も難しい事がある。	事業所移転も含めて、今後の検討課題と認識している。今後も、環境構成を工夫したり、他施設や戸外での活動に取り組んでいく。
2	●地域との連携の希薄さ 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会が少ないこと	地域との交流として、公共施設、公園、店舗の利用、地域のボランティア団体などの受け入れ、ごみ拾いなどのボランティア活動等、可能な限り取り組んでいるが、地域住民の方々との関わりを持つことは難しいのが現状である。 地域に向けて発信する機会が少ない。 保護者様のご意向として、今の活動で十分というご意見が多い。	公園や児童遊戯施設で挨拶をしたり、遊具の貸し借りやこちらの遊びに誘ったりしながら少しでもかかわれるように支援をしている。 可能な限り、公共施設を利用し、地域の場の活用や地域の方との交流を増やしていく。 保護者様のご意向を再度確認し、要望があれば、どのような形で交流が可能なか検討していく。
3	●職員の年齢や性別のバランスが悪い 若手職員が切磋琢磨し成長できる環境であってほしい。 職員の高齢化が進んでいる。	法人内の人手不足	中堅職員、若手職員の法人内異動及び公募での採用 ボランティアや実習等を積極的に受け入れ、療育支援の魅力が伝わるようにしていく。